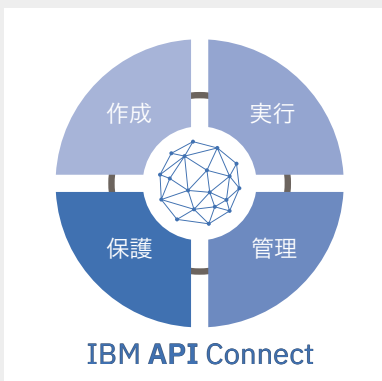




IBM API Connectによって決済システムのAPI基盤を構築し FinTech時代に対応した迅速なシステム開発基盤を提供

長年にわたって国内大手カード会社の基幹システムを手がけ、クレジットカードやデビットカードなどの「カード業務分野」を得意とするTIS株式会社（以下、TIS）では、IBM API Connectを活用してリテール決済向けソリューション「PAYCIERGE」のAPI化を推進。APIによって必要な機能を提供することで、既存のバックオフィス・システムに大きな変更を加えることなく、迅速なアプリケーション開発を可能にしました。新しくなった「PAYCIERGE2.0」によって、急速に高まる決済システムのニーズに対応できるとともに、IoT時代を見据えた今後の決済システムの適用領域の広がりを加速するものと期待されています。

- 【導入製品・サービス】** ● IBM API Connect ● IBM DataPower Gateway ● FinTechカードAPI
● IBMグローバル・ビジネス・サービス ● 東京ソフトウェア&システム開発研究所 Cloud SW Labサービス



課題

- 銀行が自ら決済業務を行うなど、決済システムの変化が急速で、それに対応して迅速にアプリケーションが開発できる仕組みが求められていた
- バックオフィス・システムに手を加えることはハードルが高く、求められる機能をAPIで提供することで対応したいと考えていた

ソリューション

- IBM API ConnectとIBM DataPower Gatewayによって、「PAYCIERGE」の機能を組み合わせたAPIを安全に公開していく

効果

- 「PAYCIERGE」が持っている機能をAPIとして広く提供していくとともに、金融機関向けにAPIの開発・管理のためのクラウド・サービスとしても提供していく

【お客様課題】

決済サービスのオープンAPI化で 変化に迅速に対応

TISは40年以上にわたって、金融機関やカード会社などの基幹システムと周辺システムの開発と運用を手がけてきました。特にクレジットカード業界では、クレジット取扱高上位25社のうち11社が同社の顧客であり、入会審査からカード発行、売上管理、請求、入金、督促などすべての業務に精通し、豊富な実績を誇っています。

こうした知見を生かしてビジネスを拡大しているのが、デビットカードやプリペイドカード向けの製品やサービスの提供です。「デビットカードの決済サービスはASPサービスとして始めました。自社サービス、自社製品を開発して提供するという、当社におけるASPビジネスとしては先駆的にスタートした従量課金型ビジネスで全社的にも注目されています」とTISペイメントビジネス事業本部 ペイメントソリューション事業部長の音喜多 功氏は話します。

現在、決済システム分野のビジネスは、決済バックオフィス・サービスから、クラウド・プラットフォームを含むモバイルやWebのサービスまで広がっており、これらリテール決済の製品・サービス群は総称して「PAYCIERGE(ペイシエルジュ)」というブランド名称がつけられています。

「強みであるバックオフィスから、モバイルなどのフロントアプリケーションまでトータルでカバーしているのが当社の特徴ですが、キャッシュレス決済の時代を迎えて、銀行が自ら決済業務に乗り出すなど、大きな変化が起きています。こうした変化にいかに迅速に対応できるかが大きな課題でした」(音喜多氏)。

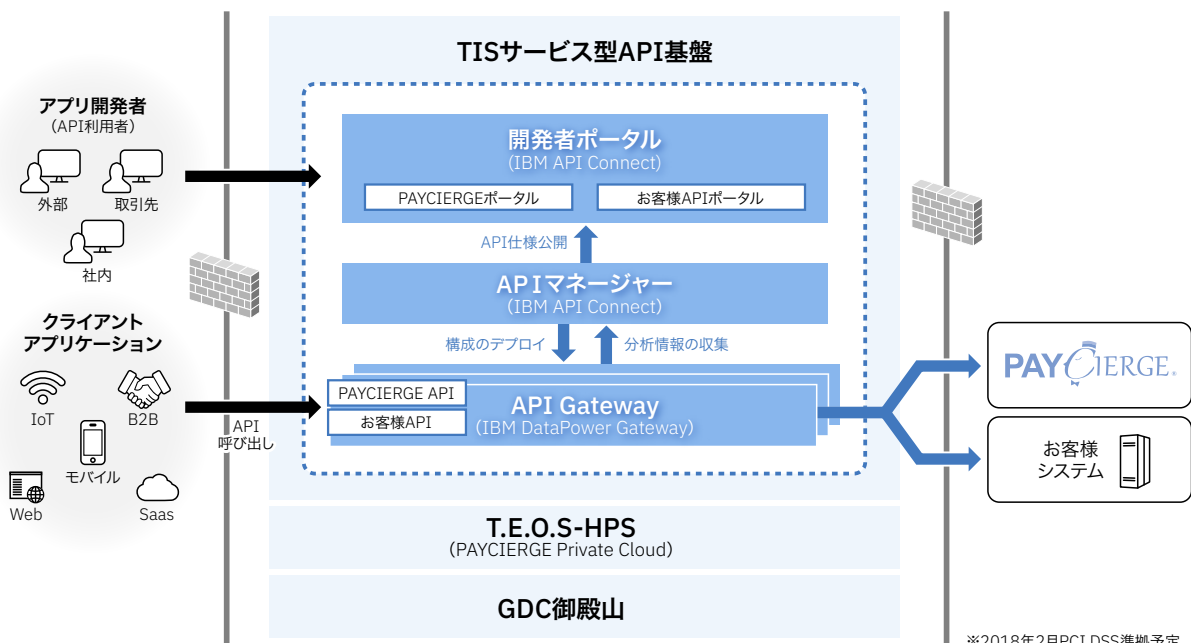
ITによって金融ビジネスに挑むFinTech企業はスピードを武器に次々と新しいサービスを打ち出しています。そこと協業していくためには、変化を予測し、システムを企画し、効果を検証し、実際に開発するというサイクルを早く回すことが求められます。

お客様にAPI化のための最適な設定をご提案するAPI化の支援は当社のビジネス・チャンスなのです。今回のIBMとの協業でノウハウを蓄積することから、大きな広がりが期待できます。



TIS株式会社
ペイメントビジネス事業本部
ペイメントソリューション事業部長
音喜多 功氏

「PAYCIERGE」API基盤イメージ



※2018年2月PCI DSS準拠予定

しかし、高い安全性と信頼性が求められるバックオフィス・システムはそう迅速には改修できません。そこで当社が取り組んだのが、システム全体の共通基盤をPaaS化して再利用しやすいように整備することと、必要な機能をオープンAPI化して公開することでした。それが新しいリテール決済サービス「PAYCIERGE 2.0」です。

【ソリューション】

IBM API Connectを導入、 マルチテナント方式の「PAYCIERGE 2.0」サービス提供を目指す

「PAYCIERGE 2.0」の目玉となるのが、決済サービスのオープンAPI化です。金融機関の戦略に合わせてサービスをAPIとして外部に開放し、FinTech企業との安全な接続を実現するものです。そのために同社では、IBM API Connect、IBM DataPower Gateway、FinTechカードAPIを採用しました。

TIS ペイメントビジネス事業本部 ペイメントソリューション事業部 ペイメントソリューション企画部副部長の林 靖彦氏は「他社のクラウド・サービスの利用も検討したのですが、クラウド・サービスではセキュリティーが担保できない恐れがあり、バックオフィス・システムと銀行口座を接続できるという当社のシステムの強みも活かせないということから、オンプレミスで使うことができ、一番実績が豊富なIBM製品を採用することにしました」と採用の経緯を説明します。

具体的には、PCIDSS 認定を受けている同社のプライベート基盤である「TEOS (TIS ENTERPREISE ONDEMAND Service)」上に、ハードウェアではなく、仮想アプライアンスのIBM API ConnectとIBM DataPower Gatewayを稼働させています。

IBM API Connectを通して、認証や利用明細、トランザクション・データなどバックオフィスのサービスやモバイル対応サービスなどをオープンAPI化してFinTech企業などに提供することで、金融機関など「PAYCIERGE」のユーザー企業とFinTech企業を簡単かつ安全につなぐ役目を果たすことができます。

2017年9月現在、システム構築は進行中ですが、「PAYCIERGE 2.0はこれまでのようなASPではなく、マルチテナント方式のSaaSモデルで提供したいと考えています。そのためにIBMの協力の元で構築を進めています」とTIS ペイメントビジネス事業本部 ペイメントソリューション事業部 ペイメントソリューション企画部主任の荒木 翔太氏は話します。

共同利用型でありながら、独自区画を設けられるマルチテナント方式にすることで、ユーザー企業が独自にAPI基盤を構築するよりも、コスト削減と開発期間の短縮を可能にするとともに、ユーザー企業ごとの独自サービスが構築できるようになります。

【効果/将来の展望】

自社サービスの展開力強化、 さらにユーザー企業のAPI化支援へ

今後の展開としては大きく2つの方向性が考えられています。その1つが自社のサービスの展開力の強化です。IBM API Connectなどの導入は、8月初旬から要件定義を開始し、来年1月にはユーザー企業向けにサービスを開始する予定です。しかし、APIの活用は待った無しということで、社内向けには10月後半に開発基盤として提供が開始されています。

荒木氏によれば「改修に時間がかかるバックオフィスに手を入れずに、APIでアプリケーションの違いを吸収することで、開発期間が数年から数カ月に短縮できるようになります。

今後はさまざまな業種の企業がAPIを利用するようになると思われるため、誰もが簡単に決済できる仕組みをAPIとして提供しておきたいと考えています。



TIS株式会社
ペイメントビジネス事業本部
ペイメントソリューション事業部
ペイメントソリューション企画部
副部長
林 靖彦氏

改修に時間がかかる
バックオフィスに手を
入れずに、APIでアプリ
ケーションの違いを吸収
することで、開発期間が
数年から数カ月に短縮
できるようになります。



TIS株式会社
ペイメントビジネス事業本部
ペイメントソリューション事業部
ペイメントソリューション企画部
主任
荒木 翔太氏

開発のスピードアップが求められている今、大きな効果が期待できます」とのことです。

もう1つの方向性はユーザー企業向けのAPI化の支援です。「今はFinTech企業がAPIを使うケースが多いですが、今後はさまざまな業種の企業がAPIを利用するようになると思われるため、誰もが簡単に決済できる仕組みをAPIとして提供しておきたいと考えています」と林氏。実際に製造業のユーザー企業と話していて、結局API化の話になることもあるそうです。

音喜多氏も「当社はもともとシステム・インテグレーターとして開発と保守を行ってきました。お客様がシステムをAPI化したいと言った時に、どの機能をどこ向けに切り出すのかが一番よくわかるのは保守のエンジニアです。お客様にAPI化のための最適な設定をご提案するAPI化の支援は当社のビジネス・チャンスなのです。今回のIBMとの協業でノウハウを蓄積することから、大きな広がりが期待できます」と話します。

決済という機能自体も今後あらゆる業種に広がって行きます。IoTが普及すれば、デバイスから自動的に決済が行われるというシーンも当たり前になります。その意味では「PAYCIERGE」自体が業種を超えたシステム基盤であり、API化という業種を超えたシステム開発手法とともに、大きな広がりが期待できそうです。



TIS株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8丁目17番1号
<http://www.tis.co.jp/>

1971年設立の国内大手システム・インテグレーター。SI・受託開発に加え、データセンターやクラウドなどサービス型のさまざまなITソリューションを提供し、中国・ASEAN地域にも拠点を展開する。金融、製造、流通/サービス、公共、通信などさまざまな業界で3,000社以上の顧客層を持つ。連結ベースでは、従業員数約2万人、売上高約4,000億円の企業グループ。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2017

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2017年10月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBM ロゴ、ibm.com、IBM API ConnectおよびDataPowerは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについてはwww.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。